

OAP 天神祭フェア 7月1日(水)~25日(土) OAPプラザ店舗にて天神祭に合わせて、フェアを開催します。この機会にぜひお立ち寄りください!

1F ベーカーカフェテラス ☎06-6882-3588
foodscape!STORE

このパンフレット提示で
ドリンク単品
50円引サービス
※セトメニューは除く(7/1~7/24)

天神祭7/25(土)
当日の特別営業

「特別観覧席付ディナー」
〜食後に店舗敷地内の
テラスから花火を鑑賞
いただけるプラン
※事前予約制。
お電話・ご来店・
メールにてお申込み
※短縮営業

B1F 肉料理 しゃぶしゃぶ ☎06-6948-6544
肉匠六感 はなれ

このパンフレット提示で
本日のおかず一品サービス
※ランチタイムのみ

このパンフレット提示で
通常30分 1,650円
→15分550円(7/1~7/31)

2F コーヒーショップ ☎06-6136-1480
上島珈琲店

B1F 寿司 ☎06-6356-3451
丸万寿司

1F フィットネス ☎06-6809-6281
エニタイムフィットネス天満橋店

B1F レディースセレクトショップ ☎06-6881-1547
MAGRITTE

※営業日・営業時間、特典および限定メニュー提供期間・提供方法は店舗により異なります。都合により予告なく変更になる場合がございますので、予めご了承ください。
※限定メニューは仕入れ状況によりご提供できない場合がございますので、予めご了承ください。※価格はすべて税込です。※画像はイメージです。

B1F うどん ☎06-6351-5005
心粋うどん いろは

このパンフレット提示で
天神祭特別セット1,300円に
サービス ※なくなり次第終了

B1F インドアゴルフ ☎06-6314-6200
梅田ゴルフ倶楽部 OAP店

このパンフレット提示で
冷たいドリンクやお酒、おつまみ、
からあげクンなど、充実の品揃えです

2F インドアアジア料理 ☎06-6809-6685
アショカCafe&Bar

B1F 寿司 ☎06-6356-3451
丸万寿司

1F アジアリク専門スクール ☎06-6357-5678
BBST [ブブスタ]

B1F インポートセレクトショップ ☎06-6881-1547
HONEY

B1F 定食・カレー ☎090-5559-0303
Daddy Kitchen

このパンフレット提示で
ご飯の大盛り無料

B1F コンビニエンスストア ☎06-6356-1184
ローソン
7/25(土)は22時まで営業

冷たいドリンクやお酒、おつまみ、
からあげクンなど、充実の品揃えです

B1F ラーメン ☎06-6358-1041
麺匠慶次 OAP店
※7/25は閉店時間が早まる可能性があります

2F 復刻西洋食堂 ☎06-6351-0006
Re:Diner〈ダイナー〉

1F 薬局 ☎06-6357-3939
OAPカセイ薬局

1F 金地金・金貨売場 ☎06-6356-5014
ゴールドショップ三菱大阪店

OAPの天神祭

行事



7月19日(日) 滝川天神こどもみこし
11:45~12:15頃 OAPタワー1階 桜広場

7月24日(金) 天神講獅子・鳳講子供神輿練り歩き
12:00~12:15頃 帝国ホテル 大阪にて 12:15~12:30頃 OAPタワーにて



7月24日(金) なつかし緑日
14:00~19:00 OAPタワー1階 桜広場ほかにて
OAP夏の風物詩、大人も子どもも楽しめる昭和の遊びが大集合!

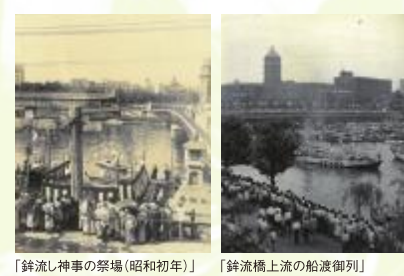
7月25日(土) 奉納花火
19:30頃~ OAP川側広場 OAPは花火の絶好のビューポイント!
OAPプラザ飲食店舗では花火のおともにごったりのフードをご用意!テイクアウトもご用意
※OAPオフィスゾーンは関係者以外ご入場いただけません。※奉納花火開催時、外周の入場制限をさせていただきます場合があります。

展示

6月24日(水)~7月25日(土) OAPタワー 1階エントランス
天神祭お祭り提灯 大坂町人のおもてなし
かつて大阪天満宮の氏地に飾られ、おもてなしの心が込められた「お祭り提灯」を再現展示いたします。



詳しくは中面を
ご覧ください!



※開催及び時間等は、都合により予告なく変更になる場合がございますので予めご了承ください。※画像はイメージ



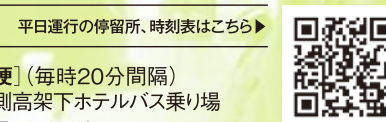
7月25日(土) 奉納花火にお越しの際は、公共交通機関をご利用ください。

※JR「桜ノ宮」駅・「大阪天満宮」駅、
大阪メトロ「南森町」駅は
交通規制による混雑が
見込まれるため、JR「天満」駅、
大阪メトロ「扇町」駅の
ご利用を推奨します。

交通規制情報はこちら▶

無料シャトルバス情報はこちら▶ 平日運行の停留所、時刻表はこちら▶

- 平日「梅田直行使」(毎時10~15分間隔) 平日「本町循環便」(毎時20分間隔)
- 土・日・祝日 (毎時10分間隔) 帝国ホテル正面→JR大阪駅西側高架下ホテルバス乗り場
- ※土・日・祝日は帝国ホテルバスもご利用いただけます。※シャトルバスは無料でご利用いただけます。
- ※7月24日、25日は混雑が予想されるため、予定時刻より変動しますので、予めご了承ください。



無料シャトルバス情報はこちら▶

OAPプラザ <http://www.oap.jp/> 〒530-6005 大阪市北区天満橋1-8-30 OAPタワー

天神祭展 2026

2026年
6月24日(水)~7月25日(土)
OAPプラザ通信 特別号



7月
天神祭フェア&
スタイリッシュバザール
開催!

大阪の夏を
熱く盛り上げる
OAPの天神祭

展示する提灯の
詳しい説明が
中面にあります。
こちらのパンフレットをお手に、
ぜひこの機会に
お立ち寄りください!

「天神祭お祭り提灯 大坂町人のおもてなし」
天神祭展「古写真にみる昭和の天神祭」
御迎え人形展示「鬼若丸」



登録はこちら▶
奉納花火や水上新能
スペシャルシートが当たる!
友だち限定抽選も
配信予定!

奉納花火を特等席で!
特別観覧席ペア券
OAP各店舗にてご予約受付中!
詳しくはこのリーフレット中面をご覧ください。



「鬼若丸」

天神祭お祭り提灯 大坂町人のおもてなし

6月24日(水)~7月25日(土) OAPタワー 1階エントランス

お祭り提灯の文字はなぜ読みにくいのか?

大阪天満宮文化研究所所長 龍谷大学エクステンションセンター顧問 高島幸次

お祭り提灯の三つの役割

「提灯」と言えば、足元や店先を照らすだけの器具だと思いがちです。しかし「お祭り提灯」の場合は、「照明」だけではなく、より重要な役割を担っています。それは、神様に捧げる浄火、すなわち神社の境内や参詣道の灯籠と同じ、神様への「献灯」なのです。

近年に新しく詠える提灯は、「御神灯」や「献灯」などと墨書された、つまり全国どの地域でも使用できるレディ・メイドのものが多いようです。

しかし、江戸時代から戦前にかけては、町内ごとに独自の文字を書いた揃いのオリジナル提灯が用意されていました。しかも、その文字は難しい漢字を読みにくい篆書や隷書などの字体で墨書されているのです。

提灯に難しく読みにくい文字が書かれておれば、よそからの参拝者の気をひきます。そこで、軒先の床机で涼んでいる古老などに文字の由来を尋ねることになる。聞かれた古老は、待ってましたとばかりに、その読みや出典とともに由来を語り始めます。このように、祭り提灯は互いのコミュニケーションを誘発する装置だったのです。

お祭り提灯は、「照明」と「献灯」に加えて「おもてなし」の役割を担っていたのです。

コミュニケーションの誘発

例えば、旧「市之側(天神橋北詰めから西方)」の提灯なら、表裏の文字は「永錫」「祚胤」だと答えながら、かねて用意の「詩経」を見せて「其類維何 室家之豊 君子萬年 永錫祚胤」が典拠だと教えるのです。読みを問われれば、「その類きこと維れ何ぞ、室家の豊あり。君子萬年までに、永く祚胤を錫わん」と読んで聞かせ、「要するに、末永く子孫の繁栄を願う意味だ」と得意げに蘊蓄を傾けたのです。ときには、そこから互いの子や孫の話題に花が咲いたかもしれません。

参拝者が再び歩み始めて町域を越えると提灯の文字が変わり、再び「お尋ねしますが、この提灯の文字は…?」となる。このように、「祭り提灯」は、遠来の参拝者とのコミュニケーションを誘発する「おもてなし」の仕掛けだったのです。

このようなオリジナル提灯は、かつては個人ではなく町内の費用で詠えられ、他町へ転出するときは町内に返納することで、提灯の地域性を維持してきました。ところが、明治以降の度重なる行政区の変更によって、町域と提灯の区域とにズレが生じ、次第にオリジナル提灯は使用されなくなりました。

そこで、OAP開業20周年(2016年)にあたり、もともと大阪天満宮氏地の提灯を中心に再現いたしました。かつての大坂町人の「おもてなし」の心に想いを馳せながら楽しみいただければと思います。

天神祭お祭り提灯の字解き

今回展示される提灯は、かつての大阪天満宮氏地に飾られていた「お祭り提灯」を再現したものです。現在では、その大半は失われてしまいましたが、藤里好古『大阪夏祭 提燈考』(昭和八年刊)に所収の図をもとに、大阪天満宮門前の「提灯舗かわい」に制作いただきました。当時のお祭りの雰囲気をお楽しみください。



1 雑喉場
[現] 西区江戸堀3丁目、京町堀3丁目]

表面に篆書で「献灯」と墨書し、その側面に「梅鉢紋」を朱記する。「献灯」は、神社に灯明を奉納すること、あるいは、灯明そのものをいう。

2 新町界限
[現] 西区新町4丁目]

両面に楷書で「庭燎」と墨書し、側面の方印型の中に「新」と朱記する。「庭燎(ていりょう)」は、神庭で焚く燎(かがりび=篝火)のこと。

3 松嶋廊
[現] 西区千代崎町1丁目]

両面に隷書で「献灯」と墨書し、側面に「梅鉢紋」を朱記する。「献灯」は、神社に灯明を奉納すること、あるいは、その灯明そのものをいう。

4 千代崎橋西詰
[現] 西区千代崎橋西詰付近]

両面に隷書で「燎(りょう)」と墨書する。「燎」は「篝火(かがりび)」のこと。千代崎橋は市中から松島御旅所への要路だった。

5 本田二番町
旧) 戎鳥町
[現] 西区川口1丁目、本田1丁目]

表面に行書で「後威」、裏面に「明輝」と墨書し、側面に西区の「西」を朱記する。両面で「後威(りょうい)=神様の御威光」が明らかに輝く。意。

6 滝川町
[現] 北区天満4丁目]

両面に篆書・行書で「豊福」と墨書する。左丘明『国語』の「受天之豊福、饗民之勳力」が出典。「天から豊福を受けるには、民の勳力が必要」の意。

7 宮之前町
[現] 北区天神橋1丁目]

両面に篆書で「垣内」と墨書し、側面に「梅鉢紋」を朱記する。「垣内(かいと)」は、天満宮の門前の意。天満宮の連歌師・西山宗因の撰定。

8 地下町
[現] 北区天神西町]

両面に篆書で「地内」と墨書し、側面に「宮」を朱記する。「地内」は大阪天満宮の地元の意。天満宮の連歌師・西山宗因の撰定。

9 天神筋町
旧) 天満九丁目
[現] 北区天神橋1丁目]

表面に「聖廟」、裏面に「如在」と、飛白(かすれ書き)で墨書する。「聖廟」は「天満宮」のこと。「如在」は「神が在ますが如く」の意。

10 此花町
[現] 北区天満4丁目、天神橋1丁目]

表面に「清燭」、裏面に「奉獻」と隷書で墨書する。「清燭」は「清浄な燭(ともしび)」、「奉獻」は文字通り「献じ奉る」の意。

11 天満市場
[現] 北区天神橋北詰]

表面に「神聴」、裏面に「介福」と墨書。「詩経」が出典。「正直にしていたら、それを神が聴いて景福(大きな幸福)を介(たす)けてくれる」という意。

12 天神橋筋一丁目
旧) 天満十丁目
[現] 北区天神橋1丁目、菅原町]

表面は「敬義」、裏面に「奉燈」。「敬義」は「易経」の「敬義立而徳不孤」が出典。「敬義(恭敬と義理)を立ててこそ、徳は理解される」という意。

13 市之側
[現] 北区天神橋北詰菅原町付近]

表面に「永錫」、裏面に「祚胤」と篆書で墨書し、側面に「梅鉢」を朱記する。「詩経」の「永錫祚胤」が出典。「末永く子孫の繁栄を願う」の意。

14 鳴尾町
旧) 天満十丁目裏町
[現] 北区天神西町]

両面に「神燭」「影向」と篆書で墨書。側面に町名の「鳴」を朱記。天神の影向(神が現れること)伝承により、地元にあった本泉寺の住職が撰定。

15 樽屋町
旧) 西樽屋町、東樽屋町
[現] 北区西天満3丁目、天神西町]

表面に「举煌」、裏面に「尊木」と隷書で墨書。側面に「三輪達」を朱記。「尊木」は、煌(かがり)きを挙げる意。「尊木」は町名の「樽」を二分したもの。

16 天満宮神領地
旧) 天神橋二丁目、大工町、伏見(たご)町、南森町、北森町、東堀町
[現] 北区東天満2丁目、天神橋2~3丁目、南森町1~2丁目]

両面に篆書と行書で「恩輝」と墨書。「通審」の「攀折奉恩輝」が出典。「果樹の枝を攀折(はんせつ)一手折るして恩輝(恵みの光)を奉る」の意。

17 源藏町
[現] 北区西天満3丁目]

表面に隷書で「清燭」、裏面に篆書で町名の「源藏」と墨書し、側面に「梅鉢紋」を朱記する。「清燭」は「清浄な燈火」の意。

18 西堀川町
旧) 堀川町
[現] 北区南森町1丁目、西天満3丁目]

表面に「享祀」、裏面に「介福」と行書で墨書し、左右に「梅鉢紋」を朱記。「享祀」は「物を供えて神を祀る」、「介福」は「大きな幸福」の意。

19 伊勢町
[現] 北区西天満3丁目、同5丁目、南扇町]

表面に「威」、裏面に「徳」と墨書。側面に「続き団子」を朱記。菅公は「威徳天神」ともい、「畏服させる威厳と、人を心服させる徳」を意味する。

20 老松町一丁目
[現] 北区西天満3丁目付近]

両面に篆書で「夜燈」と墨書。下部に太い朱線を廻し、合わせ目に町名の「老」と篆書で朱記。大阪の祭り提灯のうち最も読みにくい字体か。

21 老松町二丁目
[現] 北区西天満3丁目付近]

表面には隷書で、裏面には篆書で「献灯」と墨書し、手持ちの朱線を廻し、側面には天満宮の神紋である「梅鉢紋」を朱記する。

22 樋之上町
[現] 北区西天満1丁目]

両面に赤色の「梅鉢紋」を書き、下部に黒色の「松皮繋ぎ」を廻す。文字はないが、松と梅は天神を象徴する御神木として奥深い由来を持つ。

23 若松町
旧) 天満十一丁目
[現] 北区西天満1丁目]

両面に篆書で「奉獻」と墨書し、上部の地紙型の中に町名の「若松」を白抜きにする。提灯商だった和泉屋某の撰定と伝える。

24 真砂町
旧) 船大工町、天満十一丁目下半丁
[現] 北区西天満4丁目]

両面に隷書で「真祀」と墨書し、側面に「梅鉢紋」を朱記する。「真心から祀る」という意だが、もちろん町名の「真砂」にかけている。

25 堂島界限
[現] 北区堂島付近]

両面に草書で「献灯」と墨書し、下部に「北」を図案化して廻し、合わせ目に「区」を隷書で朱記する。北区が成立した明治十二年以降の撰定。

26 曾根崎新地
[現] 北区曾根崎新地1~2丁目]

両面に「献」と「燈」を墨書し、上部に二本の朱線を廻し、その間に二頭の「雨龍」を描き、側面に「梅鉢紋」を朱記。雨龍は火難鎮圧のまじない図。

27 安治川上通一丁目
[現] 福島区野田1丁目]

表面に篆書で「献灯」と墨書し、上部に「北」を朱で図案化して廻し、下部に朱線を廻し、合わせ目に町名の「安」を朱記する。

番外 OAPプラザ提灯
[現] 北区天満橋1丁目]

当地は川崎東照宮(明治六年廃絶)の氏地だったが、OAPの開業を受けて、大川に燦々と輝く意を込めた「燎輝」を天満宮宮司(現・名誉宮司)が撰定した。



表の見方

地図番号	1 雑喉場	旧町名
	[現] 西区江戸堀3丁目、京町堀3丁目]	現町名
提灯の文字の解説	表面に篆書で「献灯」と墨書し、その側面に「梅鉢紋」を朱記する。「献灯」は、神社に灯明を奉納すること、あるいは、灯明そのものをいう。	

※2つ並んだ提灯は、右側が表面、左側が裏面